

予防接種・ワクチンについて (1)

肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチン、子宮頸がんワクチンなど新しいワクチンが発売され、行政からの補助で無料接種することが出来るようになりました。一方、三種混合、肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンの同時接種後の突然死が相次いで報告（日本小児科学会では因果関係は無いとしています）されたり、新しいワクチン、新しい接種方法に対する不安も多いと思います。

各々のワクチンの有効性、副作用、接種方法などは主治医に相談なさることをお勧めいたします。

一般に小児科医は新しいワクチン導入に積極的な方が多く、私のような疑り深いのは少数派です。私は「ワクチンはそれを接種することによるメリットが、デメリットを大きく上回るものでなければ接種すべきではない」と考えています。「ワクチンで予防できる可能性がある病気については、全てワクチンを接種すべきである」という現在主流となっている考えに無条件で同意できません。よって、当院では小児肺炎球菌ワクチンとヒブワクチンの接種およびワクチン同時接種は、現在のところ行っておりません。

そもそも、ワクチンとは何なのでしょうか？

人類の歴史は多くの感染症との戦いでした。その中で「伝染病に一度かかると二度とはかからない」事を経験的に学びました。

1798年英国の医師ジェンナーは牛の天然痘（牛痘）に罹った牛飼いが人の天然痘に罹らない事をヒントに、毒性が弱い牛痘の膿液を人の皮膚に接種し天然痘を予防できることを発表。そこにワクチン歴史が始まりました。

ワクチンとは病気にならない程度に弱めた病原体を接種することにより、体に病原体に対する免疫（抗体）を作らせて本物の病気に罹らせなくするものです。生ワクチンと不活化ワクチンの2つに大きく分けられます。

生ワクチンとは弱毒化した病原体を生きたまま接種するもので、麻疹、風疹、おたふくかぜ、ポリオ、BCGなどがあります。病原体は体内に入って増殖しますが、病気の症状は出現せずに病気に対する免疫だけを作らせます。1回の接種で長期間有効な免疫を作ることが出来ます。

不活化ワクチンとは病原体を殺し、免疫を作るために必要な成分のみを取り出したもので、インフルエンザ、日本脳炎、百日咳などがあります。病原体が産生する毒素を処理して無毒化し、毒素を失活する働きのみを残したトキソイド（ジフテリア、破傷風など）も不活化ワクチンの一種です。生きている病原体を使用しないので、体が免疫を作る能力は生ワクチンよりも弱く、2〜3回接種して体に記憶させて免疫を作ります。1回の接種では長期に有効な免疫を作

ることが出来ず追加接種が必要で、また不活化ワクチンの効果を高めるためにアジュバンドという添加物を加える場合があります。**ワクチンの副反応について**

ワクチン接種によっておこる副作用のことを副反応といえます。大きく分けて三つあります。

- 1) そのワクチンの病気の症状が弱く出てしまうもの。麻疹風疹ワクチン後の発熱や発疹、BCG接種部位の腫脹、発赤、瘡蓋など。
- 2) 体から排出されたウイルスが他の人に感染する。ポリオワクチン接種者の便から排出されたウイルスで免疫の無い人がポリオを発症するなど。
- 3) ワクチンの構成成分や添加物に対する免疫反応。三種混合ワクチンやインフルエンザワクチン接種部位の腫脹発赤、卵アレルギー患者のインフルエンザワクチンに

よるアナフィラキシーなど。ワクチン添加物の一つであるアジュバンドは不活化ワクチンを作る際に使用するワクチン増強剤です。子宮頸がんワクチンや乳幼児用肺炎球菌ワクチン（プレベナー）、外国産の新型インフルエンザワクチン、三種混合ワクチンなどに含まれています。アジュバンドを使用すると安価に大量のワクチンを短期間に製造できるメリットがあり、特に外国では広範囲に用いられています。アジュバンドは局所の免疫反応を増強するために接種時の痛みが強かったり、接種部位の発赤腫脹が強くなったりします。昔は予防接種の後によく揉んでいたのに、今は揉まないでくださいと指導されるのは、揉むことによつてアジュバンドの効果が一層強まり、痛みや腫脹が増悪する可能性があるからです。

お知らせ

当院では、平成23年10月より、電子カルテシステムを導入します。誠に勝手ではございますが下記に示す通り、**休診**と**受付時間の変更**をさせていただきます。

システム変更に伴いまして、受付から診察・会計まで時間がかかり、ご迷惑をお掛けする場合があります。何卒、ご理解をいただきますよう、よろしく願いいたします。

記

休診 9月30日(金)

外来を休診させていただきます。(救急患者のみ受入します)

受付時間の変更 10月4日(月)

新患・再来受付を8時~10時までとさせていただきます。

10月4日(火)からは、通常通り診察・受付を行います。

山本組合総合病院
病院長

